

農業水利施設の効率的かつ計画的な保全更新対策の推進

安定的な農業用水の供給を維持するとともに、ライフサイクルコスト（※1）の軽減に努め、農業の持続的な発展を支えます。

●アセットマネジメントの推進

農業水利施設を健全な姿で次世代に引き継ぐため、ため池を含む基幹施設から末端施設まで県内施設全体を一つの資産としてとらえ、全ての関係者が目的や情報を共有し、適切な保全管理により、長持ちさせながら効率的かつ計画的な保全・更新を行う「農業水利施設アセットマネジメント」を推進しています。

また、保全・更新の際に節水型や循環型の施設へ改良するなど、琵琶湖をはじめとする環境保全に配慮しています。

種別	用水路		排水路
	開水路	管水路	
基幹水路※2	269km	540km	48km
末端水路	4,500km	1,760km	5,857km
計	約13,000km		
基幹水利施設	136箇所 (ダム、頭首工、用排水機場等)※3		

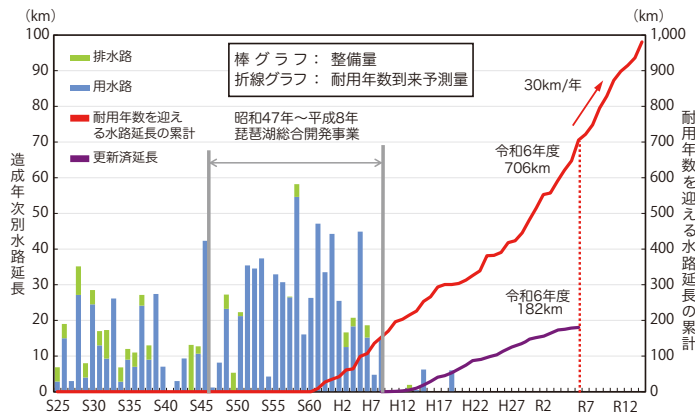
※2：国営および県営造成施設で受益面積100ha以上の水路
(ただし県営かんがい排水事業で造成された施設は、20ha以上)

※3：受益面積が100ha以上の施設

◆滋賀県の農業水利施設の現状と課題

滋賀県には、基幹的な農業水利施設としてダムや揚排水機場などが136箇所、用排水路にあっては、基幹から末端まで総延長で約13,000kmにもおよぶ膨大な水路が張りめぐらされていますが、施設の多くは、整備後40年以上が経過するなど、老朽化が進行しています。また、農業者の減少・高齢化、農村地域の混住化が進行し、維持管理体制がぜい弱化しています。

こうしたことから、適切な保全と計画的な更新を行い、併せて地域ぐるみの共同活動を推進することにより、農業生産に不可欠なこれらの農業水利施設を保全する必要があります。



幹線的な水路の整備延長と
標準的な耐用年数が到来する延長の推移(県全域)

◆突発的な漏水や施設損傷等の発生

近年、施設の老朽化に伴う揚水機の緊急停止や管路の漏水などの突発的な事故が多発しています。

特に、滋賀県には、琵琶湖からポンプで揚水する施設が多く、漏水や施設損傷など事故が発生すれば、農業生産だけでなく、地域の生活にも多大な影響を及ぼすことが懸念されることから、施設のリスク管理（※4）が求められています。



管水路の破損による農地の陥没



圧送管の破損による被害

※1 ライフサイクルコスト…施設や構造物などの調達から、使用、修繕、耐用年数の経過により廃棄処分するまでの全過程に要する費用

※4 リスク管理…さまざまな危険を、最少の費用で最小限に抑えようとする管理手法。危機管理

●農業水利施設アセットマネジメント中長期計画(R5～R14年度)

施設の日常管理を行いながら、機能の監視・診断・補修・更新を効率的に行う「アセットマネジメント」の実施計画として、関係者（農業者、県、市町等）が協働で策定した「中長期計画」に基づき、計画的に対策を講じています。

◆農業水利施設アセットマネジメントの推進方針

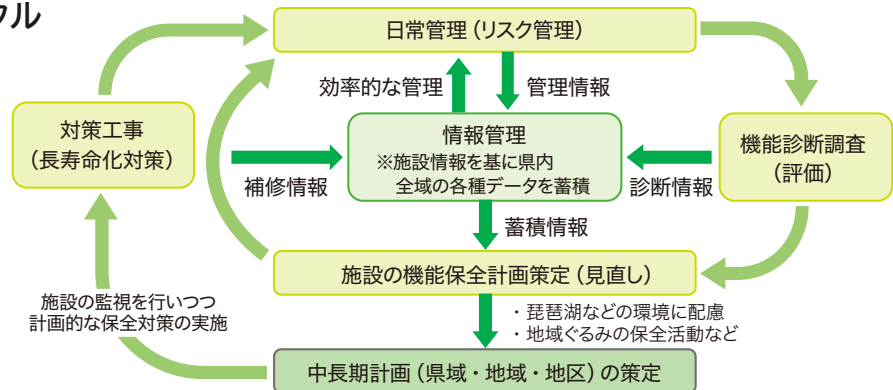
関係者の役割分担と連携のもと、次の基本方針により滋賀県独自のアセットマネジメントを推進しています。

基本方針

- ① アセットマネジメント手法により効率的で計画的な保全・更新対策を推進します
- ② 琵琶湖などの環境保全に配慮した節水型・循環型の対策や生物多様性などに配慮した対策を推進します
- ③ 施設の多面的機能が一層発揮できるよう、施設管理の体制整備や地域ぐるみの保全活動を推進します

◆アセットマネジメントサイクル

施設管理者による適切なリスク管理を基本に、継続的なデータの蓄積を行い、効率的な機能診断調査、計画的な予防保全の取組を実施し、施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を目指しています。



◆推進体制

「農業水利施設アセットマネジメント推進協議会」を中心に、各地域に設置された検討会において技術的検討や情報共有を行い、それぞれの役割分担のもとアセットマネジメントを推進しています。

